



小松 実紀、包一血一、2020、ガラス、H31 × W45 × D45 cm

# 小松 実紀

## 色づく輪郭

2021年3月5日（金）— 2021年3月27日（土）

艸居アネックス

604-0924 京都市中京区一之船入町 375 SSS ビル 3 階

開廊時間：1:00—6:30PM 定休日：日・月

現代美術 艸居 〒605-0089 京都市東山区元町 381-2  
Sokyo Gallery 381-2 Motomachi, Higashiyama-ku, Kyoto, Japan 605-0089  
T: 075-746-4456 F: 075-746-4457 info@gallery-sokyo.jp www.gallery-sokyo.jp



## プレスリリース

現代美術 艸居では艸居アネックスにて「小松実紀：色づく輪郭」を開催致します。小松にとって初個展となる今展では、新作 17 点を展示致します。現在、東京藝術大学修士課程に在籍中でもある小松は、少しずつガラス作家としてキャリアを踏み出しました。本展では、人間の存在や奥に潜む自己では捉え切れない何かを色づくガラスに映し出しました。是非この機会に小松の新作をご高覧いただけますと幸いです。

「高温でとろりと溶けたガラスは内臓や血液といった人間の肉体的な存在、冷えて固まった壊れやすいガラスの儚さや緊張感には心の繊細さや脆さという人間の精神的な存在を感じる。」と小松は言います。作品制作中に生じる「いったい自分は何者なのか。」「人間とは何なのか。」という問いから派生する、「自分のことは自分が一番わかっているつもりだけど、本当にそうなのだろうか。」という事に気付いたとき、彼女はとても不安な気持ちになると言います。自身を把握できていないという不安は徐々に大きくなるものです。しかし、人間的な二面性を帯びたガラスという素材を扱ううちに、徐々に自身の人間としての輪郭が色づき、濃くなり、作家自身に「今ここにいる」という確かな存在感をガラスは教えてくれます。こうした自身の存在の再認識により、存在に対する不安は再び小さくなり、ガラスによる真っ白な何もない空間・世界を作り上げること、人間の輪郭を色濃くすることで、自身の存在を確かめ、自身に対する問いの答えを探ることが自身における制作の目的ではないかと小松は考えるようになりました。

これまではガラスの透明性を特徴とする作品を制作してきましたが、本展では、白色の色味を持った作品も展示されます。これまで用いていた技法と全く異なる技法を用いることで、透明のガラスだけでは表現できなかった、皮膚のような柔らかい質感の表現に成功しました。この新たなシリーズの作品によって、これまでの透明なガラス作品の制作で彼女が感じていた人間の存在以外に、優しさや柔らかさ、身体を覆う皮膚のような表情が作品の一部として加わり、さらに小松の探し求める人間の輪郭が色づきました。

ガラスの性質、色を用いて人間とは何かを探求しようとする小松の作品が、一変した日常をやり過ぎて生きる私たち現代人に、人間の存在とは何かを考える機会を与えてくれます。

### 作家紹介：

小松 実紀（こまつ・みき）

1996 年新潟県生まれ。2019 年秋田公立美術大学ものづくりデザイン専攻卒業、東京藝術大学美術研究科工芸専攻陶・磁・ガラス造形研究室修士課程入学、現在在学中。2017 年 Urban Glass ワークショップ Sayaka Suzuki クラス（ニューヨーク、アメリカ）、2018 年第 31 回新島国際ガラスアートフェスティバル Davide Salvatore クラス（新島ガラスアートセンター、東京）でのワークショップ



受講。主な展覧会として2018年「Glasses」（秋田市新屋ガラス工房ギャラリー、秋田）、2019年第12回ガラス教育機関合同作品展「GEN」（東京都美術館、東京）、「若手作家展 陶・磁・璃」（現代美術 艸居、京都）などがある。

展示作品紹介（一部）：



小松 実紀, 胞VI, 2020, ガラス

H21 × W10 × D10 cm

肺胞をモチーフに制作した作品である。普段目にすることはないが、自身の体内に確かに存在するものをモチーフにし、ガラスの透明感を用いて、美しく繊細で、柔らかな人間の姿を表現した。



小松 実紀, 繭, 2020, ガラス

H12.5 × W19 × D12.5 cm

この作品は、繭のようなものにやさしく包まれたいという思いから制作した作品である。そして柔らかい質感に、内側の生々しい艶のある質感が、人間の皮膚と皮膚の下に隠れる肉や内臓のようにも見える作品である。



小松 実紀, 内臓一胃一, 2020, ガラス  
H24.8 × W34 × D18.8 cm

「内臓」シリーズ作品の初めの作品であり、モチーフは胃である。コントロールした造形に加え、ガラス自身が作り出した造形も持つこの作品は、より人間らしい生々しさや力強さがあり、作品に存在感を与える。透明なガラスだけでは表現できない、人間のより繊細で力強い姿を現した作品である。

是非、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。  
掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂けますと幸いです。

プレス担当：元林久美子

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2

[motobayashi@gallery-sokyo.jp](mailto:motobayashi@gallery-sokyo.jp)

Tel: 075-746-4456 Fax: 075-746-4457